

## 子どもの育ちにとって大切な友だち



4月のはじめ、つくし組に入園したあかちゃんを抱っこしながら、園庭散歩をしていると、園庭のお家で遊んでいる、すみれ組やそら・やまの部屋の子どもたちから“いらっしゃいませ〜”と元気な呼び込みの音が響きます。保“なにがありますか〜”子“ラーメン!”保“くださいな〜”と返すと、子“はい、ここにお座りください。はい、どーぞ”と次々にごちそうを運んで来てくれる子どもたちでした。

桜の花も終わり、新緑が美しい季節となり、例年ならにぎやかな声が保育園中に響き渡るところですが、今年は、コロナの影響で登園自粛のため静かな保育園です。

登園自粛で、在宅ワークをしながら交代で子どもたちを見たり、(子どもは)元気にしてるけど、家で友だちのことを話しているということも聞きます。

先日、新聞を読んでいたら小学4年生の子が「学校っていいところだな」という題でこんな意見を上げていました。一部紹介します。「新がたコロナウィルスのかんせんかく大をふせぐためのりんじ休校で、がっこうがどんなにいいところかみにしみた。(略)1つ目は、学校で毎日友だちに会えることです。友だちがいれば、いっしょに遊べるし、力を合わせたら、何でもできるし、勉強もわからないところがあれば教えてくれます。(以下、略)」と、学校や友だちのことを書いていました。本当に子どもたちの育ちにとって友だちの存在はとても大切だとつくづく感じています。

友だちと一緒に過ごし、一緒に育ち合う時間や場を保障することが出来る保育園が、いまそれが出来ないことに本当に心苦しく思っています。

今は、大変な状況ですが、ぐっと我慢し、お互い助け合い、この困難を乗り越えていきましょう。

## 武器ではなく生活、命にお金を

ローマカトリック教会のフランシスコ教皇が、新型コロナウイルス感染拡大にともなう危機に対応するため、紛争を終わらせ、世界が連帯するよう呼びかけをしました。

教皇は「今は武器をつくり売買すべき時ではない。人々を支え、命を救うために巨額を費やす時だ」また、ウイルスの影響で人々の生活が一変し「多くの人々が不確実な将来と、仕事を失う危機を心配している」と呼びかけていました。日本でも、緊急事態宣言に伴う自粛要請で、自営業者や、非正規労働者、学生、中小企業、飲食店など様々なところで閉店や失業、大学中退(アルバイトが出来ず学費や生活費が賄えない)、そして心を豊かにしてくれる芸術・文化の苦境など深刻な状況が起こっています。また、医療崩壊も深刻で、医療への財政支援やPCRの検査体制の充実を図っていくことが重要課題となっています。一方で、戦闘機やイージスアショア購入費などの軍事費は過去最大の伸びとなっています。



教皇が呼びかけをしているように、今は本当にやるべきことは、そのお金を本当に困っている人たちや、コロナウィルス感染予防対策に対して予算をかけること、自粛と補償はセットであり、不要不急の戦闘機やミサイルの購入はキャンセルしてでも、財源を確保しこの緊急事態に対応していくべきだと考えます。